

行雲流水

No.69 令和3年7月5日発行

「なぜ?」「知りたい!」という欲求

校長 寒河江 正人

私は、**不器用な人間だなあ**と自己評価・自己分析している。

学ぶことや仕事をすること、**人間関係**もしかりである。

生徒諸君は、自分のことをどう自己評価・自己分析しているのかなあ?

周囲を見回して、「**あの人は器用にこなすなあ。**」と感じながら、今に至っている。

でも、**不器用**だったことで、**案外良かったのかなあ**と思っていることもある。

スマートに行かなくて、つまずいたときに「**わかんないなあ。**」「**どうすればいいんだろう?**」と、ひたすら愚直に「**考える**」「**試す**」しかなかったからである。

古代ギリシャの哲学者「**ソクラテス**」の言葉に「**無知の知**」という言葉がある。

生徒諸君も、どこかで聞いたことがあるという人がいるのではないだろうか。

少し難しい説明かもしれないが、知ったかぶりをしたり、知っていることと知らないことの区別が曖昧だったりすることよりも、「**自分が「知らない」ということそのものを、自分自身が知っている（わきまえている）ことの方が、ずっといい。**」という意味である。

人間にとって、「**知りたい**」という欲求ほど、人間が人間たる根源的なものはないだろう。学生も、社会人も、どんな社会で生きていくとしても、「**知りたい**」という欲求なしには、その人に「**成長**」「**進歩**」は、ありえない。

まず、自分は「**知らない**」ことを素直に認めることが、「**成長**」「**進歩**」への第一歩なのだ。

次に「**なぜ?**」とか「**知りたい**」という「**探究心**」をもって、「**何とかして知ってやるぞ**」「**できるようになってみたい**」という欲求に支えられて、具体的な行動としてまず一步を踏み出すことが大切なのだ。

最も大切なことは、あなたが意思表示すれば、周囲のすべての人たち、すべての環境から「**教わること**」「**学ぶこと**」はできるのだということを「**知ること**」だ。

どんなときも「**なぜ?**」「**知りたい!**」という積み重ねこそが「**成長**」「**進歩**」を生むのだ。